



平成 30 年 2 月 9 日

各 位

会 社 名 豊 商 事 株 式 会 社
 代表者の役職名 代表取締役社長 安 成 政 文
 (J A S D A Q ・ コード番号 8 7 4 7)
 問 合 せ 先 専務取締役管理本部長 多々良 孝之
 電 話 番 号 (0 3) 3 6 6 7 - 5 2 1 1

平成 30 年 3 月期第 3 四半期累計期間の連結業績見通しに関するお知らせ

平成 30 年 3 月期第 3 四半期累計期間（平成 29 年 4 月 1 日～平成 29 年 12 月 31 日）の連結業績につきましては現在集計中ですが、決算の概要がまとまりましたので速報値としてお知らせいたしますとともに、前年同期実績と比較して差異が生じる見込みですので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1 . 平成 30 年 3 月期第 3 四半期累計期間の業績速報値及び業績の差異

連結

（単位：百万円）

	営業収益	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益
当第 3 四半期連結累計期間速報値 (平成 30 年 3 月期第 3 四半期累計期間) (A)	3,012	212	169	208
前 年 同 期 実 績 (平成 29 年 3 月期第 3 四半期累計期間) (B)	2,621	394	309	354
増 減 額 (A - B)	390	181	140	146
増 減 率 (%)	14.9			
(参 考) 平 成 2 9 年 3 月 期 実 績	3,536	470	384	441

2 . 差異が生じた理由

連結業績見込み

平成 30 年 3 月期第 3 四半期累計期間の我が国経済は、日本銀行による金融緩和政策が継続される中、輸出及び生産活動が緩やかに回復し、堅調な雇用及び所得情勢を背景に、消費も緩やかに回復している。また、先行きも緩やかに回復する見通しであります。

一方、世界経済は、米国ではハリケーンの影響が一巡し 30 年ぶりと言われる税制改革が成立するなど、堅調な企業業況を背景に景気拡大を継続しております。中国では構造改革の推進が重石となる一方、インフラ投資など財政が下支えし、緩やかな減速に留まっております。今後の世界経済全体では緩やかな回復を維持する見込みであります。

このような環境のもとで、商品先物取引の総売買高は 1,543 千枚(前年同期比 12.3%増)及び金融商品取引の総売買高は 1,650 千枚(前年同期比 6.2%減)となり、受取手数料は 2,927 百万円(前年同期比 15.1%増)、売買損益は 82 百万円の利益(前年同期比 10.0%増)となりました。以上の結果、営業収益 3,012 百万円(前年同期比 14.9%増)、経常損失 169 百万円(前年同期は 309 百万円の経常損失)、親会社株主に帰属する四半期純損失 208 百万円(前年同期は 354 百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失)を計上する見込みであります。

以 上